

### 3級 【パターン】傾向と対策

#### 1. 作図・パターン展開

##### <身頃>

- ・課題のシルエットは、ストレート・ややAラインどちらの解答でも正解の範囲内であるが、前身頃はダーツを袖ぐりや衿ぐりに分散・展開した結果、袖ぐりや衿ぐりが大きすぎ、身頃脇部分のたるみや衿ぐり部分の浮きすぎとして減点されたもの、また、分散・展開しないためにダーツが大きく残りすぎているものもあった。
- ・前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広くなる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは、原型と同じ幅あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。袖ぐり線の修正がうまくできないため、肩線前後のつながりが角になり、袖のシルエットを崩してしまったものもあった。
- ・後ろ身頃は肩ダーツ分量をヨーク切り替えを利用して処理しているが、ヨーク線の訂正が不備のものもあった。シルエットが崩れないようにヨーク線は、なだらかに訂正するべきである。

##### <衿>

- ・今回の衿はフラットカラーである。一般的には前後の肩線を重ねて作図をするが、囲みで作図した中にはフレアカラーやスタンドカラーに近いものも見受けられた。

##### <袖>

- ・袖の製図には様々な方法があり、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決めるべきであるが、袖山寸法を定寸（既習の寸法）で製図しており、今回の出題ブラウスの袖山の高さより高いものもあった。さらに、袖山のいせ分量が多すぎたり寸法が不足していたり、袖山の形状が不自然だったり、適切ないせ分量・袖形状で描けていないものなどが目立った。また、袖が後ろに振れているものもあった。

#### 2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは、基本的なパターンにおいては、必要な記号などを記入することで確実に点数をとれるようになったと思われる。しかし、今回のようにヨークやギャザーになると合い印の不備が目立った。
- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状が適切であることが求められる。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。
- ・ファーストパターンを作成する際にはトレーシングペーパーなどで脇線、肩線などを突き合せた状態で袖ぐり線、衿ぐり線、裾線その他の線のつながりを確認し、修正して完成させることが必要である。
- ・課題に設定された着丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として名称・地の目・記号・合い印・ボタン・ステッチなどが記入されていること。最後に衿、ポケットなど、必要なパターンが全て揃っていること。特に、パーツパターンの描き忘れや、切り離れたパターンが紛失しないように、最終的な確認を確実に行っていただきたい。
- ・最後に、ファーストパターンは作図パターンを別紙に別々にトレースし、名称、記号、合印等、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。